

「日々の理科」(第1383号) 2018 (H30), -4, 20  
「目指せコンプリート! 春の野草探し(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

3年生の子どもたちは、あまり植物の名前を知らない。正確には、植物名と実物がなかなか一致しない。「ナズナ」や「ハコベ」といった植物の名前は知っていて、時には図鑑で見える機会はあるけれども、実際に野外で「その名前の植物として」確認した経験がないのだ。



この活動は、植物の特徴をよく見ながら、実際に野外にある植物を正確に同定する必要がある。これは一人の力では難しく、協働して関わってこそ成功する活動である。



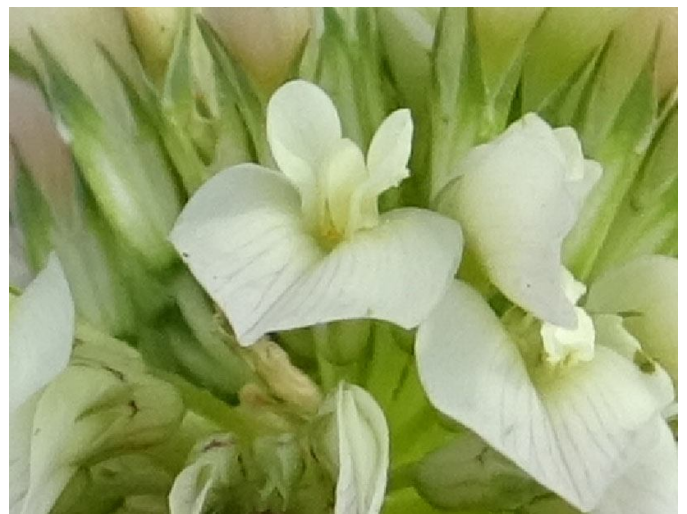
2時間続きの理科とはいえ、実際に活動できるのはせいぜい40分程度だ。限られた時間の中で、15種類もの植物を正しく同定して見つけ出すのは、なかなか難しい。特に活動を始めて間もない頃は、なかなかコツがつかめず、数種類を見つけてのが精一杯だった。



イタドリ広場には、クローバーの大群落がある。しかし子どもたちは、クローバーとシロツメクサが同じ植物とは思っていなかったようだ。ちょっと教えてあげると、夢中になって花や葉を採集していた。



シロツメクサ *Trifolium repens* はマメ科の多年草で、繁殖力が強い。もとは貨物の緩衝材として「詰められて」いたので「白詰草」と呼ばれたらしい。



花の一つを拡大して見ると、美しい蝶形花で、まさしくマメ科の花の特徴とわかる。